

パチンコ健康通信

このコーナーでは「パチンコ（パチスロを含む）と健康」の結びつきと、その関係性を強めるために業界全体およびホール、メーカーなどが取り組んでいる活動を紹介していきます。今回は依存問題の相談者、特に若い相談者の動向から見た場合に効果的だと考えられる、業界に対する西村氏の提言・提案を紹介します。

依存問題に取り組み西村氏が提言

「いくら負けるか台に表示すべき」

下にある弊発ポスターが数多のホールで掲示され、弊誌のようなファン雑誌で掲載したことによって相談件数が増加したということ。前回0043号にてリカバリーサポート・ネットワーク（以下、RSN）の西村氏に伺った。それによってすでに1万件近くあったノウハウはさらに増やされ、加えて前回0042号で紹介した久里浜医療センターの「病的ギャンブリング（いわゆるギャンブル依存）治療研究機関」が開発されたことにより、セーフティネットはより強固に確立されていき、依存

の問題が解決する可能性は自ずと高まっていくという話をした。もちろん今までもRSNが相談を受けたものの多くは解決の道を示されているし、今後その数は増えていくだろうが、「全部が上手いくわげじゃないと思うんですよ。そうなると思う必要になります。そこで業界にはより具体的な対策をお願いしたいとならない」と西村氏は提言する。

依存の問題を解決しやすくなくていくからと甘えずに、問題を起こしやすい人に対してパチンコやパチスロを控えさせるといった姿勢が必要だという提言である。「ちなみに行政の指導が入ってスベックに規制が掛けられたりしますが、数値はどこから出てきたものかということが問題で、依存問題が起こるリスクを下げるに値する科学的根拠はないんですよ」

行政は「射倖性」という造語を与えて説得力を持たせようとするも、根拠がなくては使えない。「それには規制による業界のリスクヘッジが社会にとどのような影響をどの程度及ぼすのかを調査すべきですが、なされていない。結果、単に台が売れなくなってしまう

メーカーは規制をギリギリ突破することを考え始めるわけです」行政が掛けた規制をメーカーが突破し、またそこに規制を掛けるといった「いたちごっこ」がくり返される状況。もはやリスクを下げることはできないのであれば、リスクを明示すべきであるという。例えはタバコには健康の害があるといった警告表示がされている。同じように、いくら負けるのかという数字を台に表示して、納得した人のみ打つようにすれば、「なんでこんなに負けたんだ！」となる人が出なくなるんです」



リカバリーサポート・ネットワーク代表 西村直之氏
精神科医。1965年生。1990年琉球大学医学部卒。医療法人明明会糸満明病院アルコール病棟、国立肥前療養所（アルコール・薬物依存病棟）などの勤務を経て、1999年より医療法人の会あらかきクリニック院長に就任。薬物依存回復支援施設タルクの支援など、依存回復支援にも取り組む一方、2006年4月にリカバリーサポート・ネットワークを立ち上げ、代表を務める。龍谷大学矯正・保護研究センター研究員、厚生労働省薬物研究の研究者（1998年～2002年）は「薬物依存」、2007年～現在は「いわゆるギャンブル依存の実態と地域ケアの促進」。

パチンコ依存は、誰にでも起こりうる問題です。ひとりで悩まず、お電話ください。

パチンコは、適度に楽しむ遊びです。もし、ひとりで悩んでおられるなら、みなさんの助けは、もう「適度」を戻してしまっているかもしれません。

パチンコ依存は、誰にでも起こりうる問題です。ひとりで悩まず、お電話ください。

パチンコ依存診断

- 01 □ パチンコの事ばかり考えている
(家族や友人、日本中の事まで)
- 02 □ 遊技料金が知らない間に増えている
(自分で決めた遊技料金より多く使っている)
- 03 □ パチンコで遊ぶ事をやめようと思ったがやめられない
- 04 □ パチンコで遊んでいないとイライラしたり落ち着きが無くなる
- 05 □ 嫌な事があった時、不快な気分
(涙が、鼻水、汗、胸の時に)パチンコで遊んでしまう
- 06 □ パチンコで負けると取り返そうとする
- 07 □ パチンコで遊んだ事を隠すために嘘をついた事がある
- 08 □ パチンコで遊ぶために借金をした事がある
(友人、知人から借りる事を含む)
- 09 □ パチンコで遊ぶために家族・友人・知人又は会社仕事などの約束を破った事がある
- 10 □ パチンコで遊ぶ事により出来た借金などを他人に解決してもらった事がある

自分がパチンコで遊びすぎだと思っただけは、チェックしてみましょう。

総合編集 = 町屋ルーム

GUIDEWORKS
株式会社ガイドワークス提供

総合監修 = 篠原菊紀教授

10年以上に渡り、パチンコと脳、そして健康についての研究を行ってきた第一人者。東京大学大学院教育学研究科博士課程を経て、諏訪東京理科大学共通教育センター教授（脳神経科学、応用健康科学）、学生相談室長、東京理科大学総合研究機構兼任教授、「ためしてガッテン」(NHK)、「クローズアップ現代」(NHK)、「はなまるマーケット」(TBS)などのテレビ番組、ラジオ番組、雑誌、新聞など、さまざまなメディア出演、パチンコ関連の協会、メーカーなどでの講演多数、著書に「脳の仕組みを利用して賢くやせる!」脳トレユニット (FUTSAL NAVI SERIES22) (白泉社) など

パチンコと健康を考える第一人者

依存の問題で基本となるのは「しようがない」と思えるかどうか



「例えば何万円もする高い服を買ってみたいけど、どうにも似合わない着て着なくなってしまう場合、無駄な出費をしてしまったけれど『しょうがない』と思えます。なんでムキにならないのかというところ、買う前から値段がわかっている、もし似合わなかったり、気に入らなくなったら、そのお金が無駄になることをわかった上で買っているから『しょうがない』と思えるわけです。依存の問題で基本となるのは、その『しようがない』と思えるかどうかで、そこが予防する際の落とし所なんですよね」

1時間で2万5千円負ける可能性があると明示されているパチスロを打って、本当に2万5千円負けたとしても「なんでこんなに負けたんだ！」とはならない。わからないで打ったからそう思ってしまう、「そんなはずはない！取り戻せるはずだ!!」とお金をつぎ込んでしまう。そこでさらに、取

り戻せる可能性もシミュレート値で明示してしまえば、例えば数値が「3%」と表示されたとして、それでも打つという人は負けても「しようがない」と思えるだろう。「しようがない」という気持ちは自責の念を呼び、無理な出費を抑えることになるはずだ。

しかしそこまでまざまざとリスクを明示したら、客は離れていく一方であり、そんなことをホールもメーカーもするわけがないと思われるかもしれないが、西村氏はまったく逆であると言う。

「若者がパチンコ離れしている理由は『いくら掛かるかわからない』ということだと思います。例えば食べ放題が人気なのは時間とお金がハッキリしているから。回転寿司とかも積み上がったお皿の数で値段がハッキリするから安心して食べられる。それがメニューのない高級寿司だといくら掛かるかわからなくて、入りにくいわけです。パチンコホールも同じで入ったら最後、出るときにいくら掛かるかわからない。それでは今の若者は呼べないわけです」

リスクを明示することで逆に安心して(もしくは覚悟して)来やすくなる若者が増えるということ。

では、リスクの明示のない今も来ている若者たちは何か? ファッション雑誌を読んでリスクを踏まえた上で来ている者が大勢である一方、ゲームの延長線上でパチンコやパチスロを捉えている若者も少

なからずいるという。

「モチーフやコンテンツがゲームと同じ機種が数多くあるというのでもあってゲームの延長線上だと考えやすく、結果、ハイリスクなものであるという自覚がないままに気が付いたらお金の問題を抱えているという若者がいます。40代、50代の昔からパチンコを知っている人間はリスクがあることは承知した上で、リスクを楽しむギャンブルだとわかっています。『パチンコなんだからお金の問題が出るのは当たり前だ』という意識です。対してギャンブル色を薄めて攻略要素も盛り込み、ゲーム要素を強く出した今のパチンコを打つ



若者の中には、ゲームを攻略するためにパチンコをして、たまたまお金が戻ってきたら、そのお金で攻略が続けられるとしか思っていない人もいます。結果、お金をたくさん使うリスクを知らずに、お金の問題を抱えてしまつのです」

ゲームユーザーの引き込みがお金の掛かる遊びだという部分を隠し、結果、依存問題をより根付かして逆に若者離れを引き起こしてしまつたという現実。健全なレジャー化が覆い隠したリスクを顕在化することこそ、依存の問題を予防する方向になるという西村氏の提言を業界は真摯に受け止めるべきだと思いがちかであるだろうか?



「息を吐くとき強めに伸ばす」



「データランブ確認」健康術

ただ見るのではなく、首を伸ばしてストレッチ。「胸を張り、背筋を伸ばし、深呼吸をしながら、首の付け根から動かすこと。息を吸うときは少しストレッチを弱め、吐くときにやや強めに伸ばしましょう」(根本賢一先生)。さらに「データランブを見ながら、あれこれ考えると脳にいいです。スロじゃなくてエロでも良い」(篠原先生)。

パチスロ実戦中にできる オリジナル健康術

パチンコは、
適度に楽しむ
遊びです。

パチンコ・パチスロ依存は、
誰にでも起こりうる問題です。
ひとりでも悩まず、
お電話ください。

もし、ひとつでも当てはまるなら、
あなたの遊技は、もう“適度”を
超えてしまっているかもしれません。

- パチンコをするためにウソをついた
- 使ってはいけないお金を、使ってしまった
- 負けを取り返そうとして、途中で止められなくなった
- やり始めると、時間や金額が分からなくなってしまう
- パチンコをするために、お金を借りた
- パチンコが原因で、大切な人とケンカになった

相談窓口

050-3541-6420

月～金(土日祝祭日除く)午前10:00～午後4:00

ホームページ

<http://rsn-sakura.jp/>

ぱちんこ依存問題相談機構

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク



リカバリーサポートネットワークは、ぱちんこ依存問題からの回復を支援する非営利相談機関です。電話による無料相談を行っています。相談は匿名でお受けしています。当団体の活動は、パチンコ・パチスロ産業21世紀会の支援、会費、寄付によって支えられています。

※パチンコ・パチスロ産業21世紀会(加盟14団体)

全日本遊技事業協同組合連合会、社団法人日本遊技関連事業協会、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合、遊技場自動サービス機工業会、遊技場自動補給装置工業組合、遊技場メダル自動補給装置工業会、一般社団法人日本遊技産業経営者同友会、一般社団法人余暇環境整備推進協議会、一般社団法人パチンコチェーンストア協会、一般社団法人電子認証システム協議会、一般社団法人プライベートシステム協会

※業界団体がパチンコ・パチスロ依存問題を解決支援するために作成したポスターです